

# 公益社団法人日本学生陸上競技連合 2025年度（令和7年度）事業報告

## 【概要】

令和7年度、陸上競技界は2025東京世界陸上競技選手権大会の開催が大きな話題となり、日本人選手の活躍や、世界トップアスリートの躍動が、陸上界に留まらず多くの国民に感動をもたらした年であった。

学生陸上競技界における国際大会については、隔年開催のFISUワールドユニバーシティゲームズ(以下WUG)が、ドイツのライン、ルール地方で開催され、日本学連は代表選手を選考し、日本オリンピック委員会に推薦、代表選手団を派遣した。また、2026年3月、WUGを開催しない年に開催されるFISUワールド・ユニバーシティ・チャンピオンシップ(以下WUC)の世界大学クロスカントリー選手権大会(イタリア・カッシーノ市)へ、日本代表選手を派遣した。

主催事業については、年度当初に立てた事業計画に沿って遂行し、無事、計画通りに実施することができた。

年度最初の事業として、4月25日から3日間、WUGの代表選考競技会を兼ねた、日本学生陸上競技個人選手権大会を開催。第65回実業団・学生対抗陸上は、日本学連が当番チームとして準備にあたり、開催期日を慎重に検討し、選択肢が少ない中、暑熱対策を心がけ8月9日に開催。例年9月に開催していた天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会(以下日本インカレ)は、同時期に東京世界陸上が開催されるため、6月5日～8日に前倒しして開催、66年ぶりに岡山市(JFE晴れの国スタジアム)において開催した。

10月、駅伝シーズンに入り、昨今の気温上昇傾向の影響もあり、開催時期やスタート時間について議論が始まった。出雲駅伝については、13:05のスタートを午前中に変更できないか、出雲市と日本学連が連名でフジテレビへ申し入れを行った。

全日本大学女子駅伝、全日本大学駅伝についても1週遅らすことができないかの検討が始まったが、調整が必要な関係機関が多いこともあり、時間をかけて検討することとした。

12月30日開催の全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)は、スズキ株式会社が特別協賛となる最後の年になった。次回大会について、スズキ(株)に代わる特別協賛を獲得することが大きな課題となっている。

2026年に入り、丸亀開催として2回目となる第29回学生ハーフマラソン選手権大会を2月1日に開催。今回はWUGの選考レースではなかったが、昨年に引き続き、日本学生記録を更新した。3月15日に第20回日本学生競歩選手権を開催。今回から20kmからハーフマラソンの距離に変更となって実施された。同日に第29回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会(松江市)を開催。競歩および女子ハーフマラソンの二つの選手権大会は、選手強化の観点から今大会から8位まで奨励金を授与することとした。

## {公1-競技会}

◆2025日本学生陸上競技個人選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)日本代表選手選考競技会

1.大会期日:2025年4月25日(金)~27日(日)

2.場所:神奈川・レモンガススタジアム平塚(ハンマー投は東海大学湘南校舎陸上競技場)

3.エントリー数:男子549名、女子538名

4.競技会概要

今大会は7月に行われる、FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール）の日本代表選手選考競技会を兼ねて開催され、全国から日本代表の座を狙う精鋭達が平塚に集い、例年に比べ緊張感が高まる大会となりました。今大会のレベルの高さの証明として、9つの種目で大会新記録(タイ記録を含む)が更新され好記録が続出した大会となった。

#### ◆2025 オールスターナイト陸上

秩父宮賜杯第 65 回実業団・学生対抗陸上競技大会

1.大会期日：2025 年 8 月 9 日（土）

2.場所：神奈川県・レモンガススタジアム平塚

3.学生選手団役員

監督 山下 誠、 男子コーチ 黒須 雅弘、 女子コーチ 小倉 幸雄

男子主将 愛宕 頼、 女子主将 村上 来花

マネージャー 桑原 悠真

4.競技会概要

日本グランプリシリーズに参画して3年目となる今年は、7月のFISU ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)に出場した選手や、9月に控えた東京世界選手権の代表入りを狙う選手など、学生と実業団のトップ選手が集結し、注目度の高い大会となった。

#### ◆天皇賜盃第 94 回日本学生陸上競技対校選手権大会

1.大会期日：2025 年 6 月 5 日（木）～8 日（日）

2.場所：岡山県・JFE 晴れの国スタジアム

3.エントリー数：男子 114 校 997 名、女子 105 校 839 名

4.競技会概要

岡山県での開催は、1959 年に行われた第 28 回大会以来、実に 66 年振りの開催となり、前回大会よりも地元のファンの方々による来場が目立った大会であった。

今大会は順天堂大が 5 連覇を果たし天皇賜盃を、筑波大が第 89 大会以来となる秩父宮賜杯を獲得し、8 つの大会新記録と昨年を上回る 3 つの日本学生新記録が飛び出し、好記録が連発した大会となった。

#### ◆第 37 回出雲全日本大学選抜駅伝競走

1.大会期日：2025 年 10 月 13 日（月）

2.場 所：島根・出雲市 出雲大社正面鳥居前～出雲ドーム前

3.エントリー数：21 校・中国四国学連選抜

4.競技会概要

今大会は、出雲駅伝が始まって以来、史上初の北信越地区から単独出場校が 2 校誕生し、信州大学と新潟大学が出雲路を湧かせた。この 2 校の他にも、九州地区から志學館大学が初出場を果たした。また、オープン参加ではあるが 28 回大会以来 9 年ぶりに中国四国学連選抜が編成されるなど、話題性に富んだ大会であった。

#### ◆第 43 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

1. 期日：2025 年 10 月 26 日(日)

2. 場所：宮城・仙台市 弘進ゴムアスリートパーク仙台

3. エントリー数：25 校・東北学連選抜チーム（OP） 計 26 チーム

4. 競技会概要

前回大会の上位 8 校、各地区学連代表の 14 校、チーム内 5000m 上位 5 名の記録によって選出された

3校、さらにオープン参加の東北学連選抜を加えた計26チーム参加。前回大会の覇者、立命館大学の連覇を城西大学が阻んだ大会であった。

#### ◆秩父宮賜杯第57回全日本大学駅伝対校選手権大会

- 1.大会期日：2025年11月2日（日）
- 2.場所：愛知県・熱田神宮西門前～三重県・伊勢神宮内宮宇治橋前
- 3.エントリー数：25校・日本学連選抜チーム・東海学連選抜チーム計27チーム
- 4.競技会概要

後半の勝負所において黒田朝日選手(青山学院大)が佐藤圭汰選手(駒澤大)を抑え、圧巻の走りで区間記録を更新し区間賞を獲得。8区では、今夏のWUG(2025/ライン・ルール)、ハーフマラソンで優勝をした工藤慎作選手(早稲田大)が日本人区間最高記録を30年振りに塗り替え、区間賞を獲得。結果は駒澤大学が2年振り、史上最多17回目の優勝。大会MVPは区間新記録の走りで優勝へと導いた伊藤蒼唯選手が選出された。

#### ◆2025全日本大学女子選抜駅伝競走

- 1.期日：2025年12月30日（火）
- 2.場所：富士市/富士宮市 富士山 本宮浅間大社前～富士総合運動公園 陸上競技場
- 3.エントリー数：22校・全日本大学選抜チーム・静岡県学生選抜チーム計24チーム
- 4.競技会概要

最終7区において、城西大学の太西由菜選手が4km付近で大東文化大をかわすも、6km付近で東北福祉大の村山愛美沙選手に逆転を許しました。残り1kmで再び先頭に立つと、そのまま区間賞の走りでフィニッシュテープを切り、優勝を果たした。2位は東北福祉大、3位は大東文化大、連覇を目指した立命館大は5位となった。城西大は7区間のうち3区間で区間賞を獲得し、本大会で初優勝を達成した。全日本大学女子駅伝と合わせて2冠を達成した。

#### ◆第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会

- 1.大会期日：2026年2月1日（日）
- 2.場所：丸亀市 香川丸亀国際ハーフマラソンコース
- 3.エントリー数：300名（198名完走）
- 4.競技会概要

第78回香川丸亀国際ハーフマラソンと併催し、今年は2回目として実施。東京国際大学が大会エントリー漏れとなり、学生選手権出場は不可となったが、リチャードエティエリ選手は招待枠で出場可となり、学生新記録で優勝。本年も良いコンディションに恵まれハイレベルの大会となった。

#### ◆第29回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会

- 1.大会期日：2026年3月15日（日）
- 2.場所：島根県・松江市 まつえレディースハーフマラソンコース
- 3.エントリー数：58名（37名完走）
- 4.競技会概要

実業団の選手も参加し、学生にとってはトップアスリートと一緒に競い合える貴重な経験になった。表彰台を学生が独占し、全体結果でも上位8位までに7名の学生が入賞する。今回から選手強化の観点で8位まで奨励金を授与した。

## ◆第20回日本学生競歩選手権大会

- 1.大会期日：2026年3月15日（日）
- 2.場所：石川県・能美市 能美市営コース(往復1.0km)
- 3.エントリー数：男子42名、女子27名
4. 競技会概要

第50回全日本競歩能美大会との併催で開催。国際ルールの変更により、これまで20kmで開催されていたが、今年からハーフマラソンと同じ距離で実施。原圭佑選手（京都大）が学生1位でゴールした。今回から8位まで奨励金を授与した。

## {公2-育成}

### 【海外派遣】

（1）令和7年度は、隔年開催のFISUワールドユニバーシティゲームズ（ドイツ/ライン、ルール地方）（以下WUG）が開催され、日本代表選手を選考し、日本オリンピック委員会に推薦、選手団を派遣した。日本チームは、金5・銀3・銅3（計11個）のメダルを獲得し、入賞（4～8位）は14に達した。メダル獲得数においては国別1位であった。特にロード種目では、男子ハーフマラソン個人の大会新記録、男子/女子ハーフマラソン団体、男子20km競歩団体で金メダルを獲得し、チーム力が顕著に表れた。トラックでは男子110mハードルで金、男子100mで銅、フィールドでは男子走幅跳で銀を獲得し、短距離・障害・跳躍においても存在感を示した。

（2）FISUワールド・ユニバーシティ・チャンピオンシップ（以下WUC）の世界大学クロスカントリー選手権大会（3月/イタリア・カッシーノ市）へ、日本代表選手を派遣した。選手は男女ともLong Race（10K）に出場した。女子のレースは14カ国43名で行われた。直前のコンディション不良で橋本選手（名城大）が欠場となり、村山選手（東北福祉大）と小川選手（立教大）が出場した。村山選手は終盤まで上位争いを展開し見事に銅メダルを獲得した。小川選手は9位であった。男子のレースは19カ国50名で行われた。野中選手（國學院大）、藤田選手（中央大）、折田選手（青山学院大）の3名が出場。野中選手が中盤以降順位をあげ、ラスト1Kをきったところで2位に浮上。日本勢としては14年ぶりに銀メダルを獲得した。折田選手は9位、藤田選手は21位であった。他のカテゴリーを含め、積極的にクロスカントリーに取り組んでいる欧州勢の強さが際立つ大会であった。

### 【ドーピングコントロールテスト】

主催の陸上競技3大会（日本学生個人選手権/実業団・学生対抗陸上/日本インカレ）と全日本大学女子駅伝対校選手権大会において実施した。

### 【アンチドーピング・アウトリーチプログラムの実施】

日本アンチドーピング機構、日本陸連との連携により、日本学生個人選手権および日本インカレにおいて実施。

### 【競技者育成奨励事業】

- ・共催事業でもある北日本インカレ・西日本インカレに対して補助金の支給
- ・全国大学対校男女混合駅伝競走大会、クロカン日本選手権を共催として参賀

・日本学生陸上個人選手権大会は3位まで、女子ハーフマラソンおよび男女競歩選手権においては8位入賞者に対して奨励金を授与、栄章である日本学生新記録章では授与式を開催し、副賞として選手、指導者への奨励金授与を実施した。

【B級審判員育成】新規B級審判の資格取得については各地区学連に委譲し、多くの学生審判を養成した。

### 【第71回指導者会議】

開催日：令和8年3月7日(土)

開催プログラム（テーマ）：「指導者会議のこれまでとこれから」

1. 史料にみる指導者会議70年の歩み
2. 指導者会議における陸上競技用語をめぐる議論
3. 学連トレーニング方式の実践とブレイクスルー
  - ・ プログラム1/大林 太郎(筑波大学 体育系)
    - ・ 学生陸上の端緒から日本学連の創設、・ 指導者会議の発足、・ 会議の歩みと議題の変遷
    - ・ 指導者会議への見解
  - ・ プログラム2/杉浦 澄美(筑波大学 体育系)
    - ・ 指導用語概念の明確化、・ 会議での議論、・ 議論の終着点と用語を深く理解することの重要性
  - ・ プログラム3/永井 純(専務理事)
    - ・ 日本学連トレーニング方式の出会い、・ 実践と成長、・ 日本学連トレーニング方式の限界
    - ・ アプローチの転換、・ 今の指導者会議の課題

【マラソン強化】東京マラソンへの学生エリート、準エリート選手推薦を予定通り実施した。

## {公3-調査研究}

### 【陸上競技研究誌の発行】

toto 助成金を受領し、年3回の陸上競技研究（138～140号）を計画通り発行した。

### 【日本陸上競技学会の共催】

第24回日本陸上競技学会を共催した。

テーマ：「陸上競技学における実践知の実効化に向けて」

期 日：11月15日（土）から16日（日）

会 場：筑波大学

### 【2025日本学生記録年鑑の発行】

2025年の学生50傑、2025年に開催した競技会の結果等を掲載、年度末において発行した。

## {法人管理部門}

### 【第17回定時社員総会】

令和7年6月21日開催の定時社員総会は、令和6年度の事業報告/収支決算および定款改定を議題として開催した。

### 【理事会】（主な議題）

- 第72回理事会：4月18日（金） 加盟校の不適切事案に対する処分
- 第73回理事会：4月28日（月） FISUワールドユニバーシティゲームズ/日本代表選手・役員選考について
- 第74回理事会：6月5日（月） 令和6年度事業報告及び決算について
- 第75回理事会：9月27日（土） 2026年度主要競技会日程、WUC選手選考要項
- 第76回理事会：12月13日（土） 正会員の定数、役員候補選出会議メンバーについて
- 第77回理事会：3月7日（土） 令和8年度事業計画・予算について

### 【幹部役員研修会】

恒例の第51回幹部役員研修会は3月6日（金）～7日（土）、1泊2日の日程で実施した。日本学連の事業遂行において、重要な役割を担う新学生幹部役員に対する研修となった。

### 【普通会员の登録数】

令和7年度、普通会员登録者数は20,814となった。令和6年度は19,901名であったことから、913名の増員となった。過去最高の登録人数となり、コロナ禍の影響で20000名を割っていた状況が続いていたが回復した形となった。

### 【法人の運営体制の充実を図るための取組】

#### ◆ガバナンス強化に向けて

- ・スポーツ庁が提唱するスポーツ団体ガバナンスコード（一般スポーツ団体向け）について、年度の初めに役員間で確認する体制を取っている。
- ・令和7年度、倫理委員会運営規定に呼応し、「普通会员及び指導者等についての処分規程」を弁護士指導の下策定し、不祥事の事後対応の仕組みを確立した
- ・令和7年度においては、外部理事・女性理事1名の選任することにより、陸上競技のみの視点ではなく、ダイバーシティの考え方などを組織に取り入れることを試みた。

#### ◆ファンドレイジングの充実

- ・組織運営の重要な要素である財務基盤の充実、公益事業の充実のため、ファンドレイジングの取り組みに向け、事務局体制および担当委員会を再編して取り組んだ。

公益社団法人日本学生陸上競技連合 2025年度（令和7年度）事業報告

(1) 公1 <競技会>

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・競技者数	備考
1	2025日本学生陸上競技個人選手権大会 兼 FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライオン・ルール) 日本代表選手選考競技会	2025年 4月25日(金) ～4月27日(日)	レノガスタジアム平塚 ※ハマー投げのみ東海大 学湘南校舎競技場 (平塚市)	男子18 女子18	81校/548名(男子) 80校/539名(女子)	大会新(17) 大会タイ(1) ※ホスピタリティ振興基金助成金事業
2	天皇賜盃 第94回日本学生陸上競技対校選手権大会	2025年 6月5日(木) ～6月8日(日)	JFE晴れの国スタジアム (岡山市)	男子22 女子22	114校/997名 105校/839名	男子総合優勝校…順天堂大学(78点) 女子総合優勝校…日本体育大学(71点) 男子総合優勝: 天皇賜盃 女子総合優勝: 秩父宮妃杯 日本学生新(5) 大会新(14) 大会タイ(1) ※ホスピタリティ安全協会ホスピタリティ普及奨励助成金事業
3	秩父宮賜杯 第65回実業団・学生対抗陸上競技大会 2025オールスターナイト陸上(日本GPシリーズ 平塚大会)	2025年 8月9日(土)	レノガスタジアム平塚 (平塚市)	男子9 女子9	54名(男子) 54名(女子) ※OP参加含まず	実業団217点 男子111点 女子106点 学生165点 男子79点 女子86点 総合優勝チーム: 秩父宮賜杯・内閣総理大臣杯 男子優勝チーム: 文部科学大臣杯 女子優勝チーム: 厚生労働大臣杯
4	第37回出雲全日本大学選抜駅伝競走	2025年 10月13日(月/祝)	出雲市 45.1km 6区間		国内20チーム+OP1チーム (中国四国選抜) 海外1チーム(IVY)	優勝…國學院大2時間09分12秒 (2年連続3回目) 準優勝…早稲田大2時間09分50秒 優勝チーム: 内閣総理大臣杯・文部科学大臣賞
5	第43回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2025年 10月26日(日)	仙台市 38.0km 6区間		国内25校+1チーム (東北選抜)	優勝…城西大2時間03分28秒 (25年ぶり3回目) 準優勝…大東文化大2時間03分44秒 優勝チーム: 文部科学大臣杯
6	秩父宮賜杯 第57回全日本大学駅伝対校選手権大会	2025年 11月2日(日/祝)	名古屋～伊勢市 106.8km 8区間		国内25校+2チーム (東海選抜/全日本大 学選抜)	優勝…駒澤大5時間6分53秒 (2年ぶり17回目) 2位…中央大5時間8分54秒 優勝チーム: 秩父宮賜杯
7	2025全日本大学女子選抜駅伝競走	2025年 12月30日(火)	富士宮市～富士市 43.4km 7区間		国内22チーム+2チーム (全日本大学選抜/静 岡県選抜)	優勝…城西大2時間22分36秒 (初優勝) 準優勝…東北福祉大2時間22分47秒 優勝チーム: 文部科学大臣杯
8	第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会 ※香川丸亀国際ハーフマラソン大会と併催	2026年 2月1日(日)	丸亀市		エントリー300名 完走198名	優勝…佐藤大介(中央大)1時間00分40秒 準優勝…山本悠(順天堂大)1時間00分46秒 3位…大濱遥真(大東文化大)1時間00分48秒
9	第20回日本学生競歩選手権大会 ※全日本能美競歩大会と併催	2026年 3月15日(日)	能美市		(男子)エントリー42名 (女子)エントリー27名	男子優勝…原圭佑(京都大)1時間21分55秒 女子優勝…谷純花(金沢学院大)1時間41分25秒
10	第29回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 ※まつえレディーズハーフマラソン大会と併催	2026年 3月15日(日)	松江市		エントリー58名 完走37名	優勝…山田祐実(大阪学院大)1時間11分26秒 準優勝…蔦野萌々香(大東文化大)1時間11分59秒 3位…弓木咲来(立命館大)1.12.03

(2) 公2 <育成>

No.	競技会等	期日	場所	備考
1	FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライオン・ルール)	2025年 7月21日(水) ～7月27日(月)	ライオン・ルール地方 (ドイツ)	選手47名(男子28名・女子19名) 役員17名うちAT02名 金メダル5、銀メダル3、銅メダル3、入賞14
2	第47回北日本学生陸上競技対校選手権大会	2025年 9月5日(金) ～7日(日)	札幌市円山競技場	日本学連共催
3	秩父宮賜杯 第78回西日本学生陸上競技対校選手権大会	2025年 9月12日(金) ～14日(日)	たけびしスタジアム京 都	日本学連共催
4	日本学連栄章贈与式/諸記録章 (日本学生新記録)	2026年 3月7日(土)	TKPカンファレンスセンター (新宿)	【日本新記録/日本学生新記録章】 ①篠原倅太郎(駒澤大) ハーフマラソン 【日本学生新記録章】 <男子> ①落合晃(駒澤大) 800m ②リチャード・エティエリ(東京国際大) ハーフマラソン ③黒田朝日(青山学院大) マラソン ④山崎琉惟・平川慧・白畑健太郎・甘浦亮仁(東洋大) 4×400mR <女子> ①青木アリエ(日本体育大) 400m ②田島愛理(順天堂大) 1500m ③本田怜(順天堂大) 100mH ④柴藤凜・前田美結子・大林璃音・山形愛羽(福岡大) 4×100mR ⑤小林美月(日本体育大) 棒高跳 ⑥村上来花(九州共立大) ハマー投
5	第109回日本陸上競技選手権大会(カスケート)競走(日本学連共催)	2026年 2月21日(土)	海の中道海浜公園 (福岡市)	男子(選手権4位)…野中恒亨(國學院大)29分26秒 女子(選手権3位)…村山愛美沙(東北福祉大)34分05秒
6	第6回全国大学対校男女混合駅伝競走大会	2026年 2月15日(日)	ヤマスタジアム長居/長居公 園 (大阪市)	優勝…城西大58分30秒 準優勝…大東文化大59分43秒 国内21校+1チーム(関西選抜) 日本学連共催
7	RUN as ONE 東京マラソン2026準エントリー(学生)	2026年 3月1日(日)	東京	東京マラソン財団へ推薦、準エントリー及びエントリー

8	第71回指導者会議	2026年 3月7日(土)	TKPカンファレンスセンター/オンライン 併催(新宿)	テーマ「指導者会議のこれまでとこれから」
10	新規B級審判員資格認定		各地	講習会は地区学連が開催
11	ドレッシング・コントロールテスト	3回	各地	検査実施大会(日本学生個人、日本IC、全日本大学女子駅伝)
12	知っておきたい アソビドレッシングの知識2026発行	2026年1月1日発行	日本学連ホームページに公開	日本学連医事委員会編集

### (3) 公3<調査研究>

No.	事業	期日・回数	場所	備考
1	日本陸上競技学会共催(第24回)	2025年 11月15日(土) ~16日(日)	筑波大学	日本学連共催 テーマ「陸上競技学における実践知の実効化に向けて」
2	研究調査『陸上競技研究』の発行	年3回 138号~140号		(ISSN 0919-9918)日本学連調査研究委員会 2025/6/30、10/31 2026/2/28発行 ※スポーツ振興くじ助成金事業
3	2025年日本学生記録年鑑の発行	2026年 3月30日発行		1000部発行 主催競技会の記録、2025年50傑、歴代10傑他

### (4) 法人管理部門<組織力管理>

No.	事業	期間・回数等	摘要
1	理事会の開催	6回	第72回(4月18日) 第73回(4月28日) 第74回(6月5日) 第75回(9月27日) 第76回(12月13日) 第77回(3月7日)
2	定時社員総会の開催	1回	第17回定時社員総会(6月21日)/R6年度事業報告、定款の改定
3	企画委員会の開催	4回	定時理事会の設営(議題の検討)、執行業務の企画、立案
4	会員の入会受付	2025年度	正会員 135名 普通会員(学生) 20,786名 賛助会員の募集活動
5	公認競技会開催申請及び 記録公認申請	2025年度	日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付/日本陸連申請 日本学連傘下の団体の記録公認受付/日本陸連申請 WRK競技会開催受付/申請
6	会報の刊行	3回	各回 1,000部(名誉会員、正会員、役員、委員会委員、賛助会員 地区学連加盟校に配布) 5月、10月、1月
7	ホームページの運営・公開	随時	事業計画、事業報告、計算書類等の公開、競技会等に関する情報提供、等
8	2025学生役員会議	2025年 12月13日(土)	1回開催(新宿) 参加対象:各地区学連幹部学生役員
9	第51回学生幹部役員研修会	2026年 3月6日(金) ~7日(土)	集合研修 参加対象:令和7年度各地区学連三役
10	学連情報の掲載	毎月	『月刊陸上競技』に掲載 (各地区ヘッドコーチ、地区選出理事、専門委員長などが執筆)